

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和6年1月10日

公表: 令和6年1月31日

事業所名 上代継在宅地域支援センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容によってはマットの数を増やし、スペースを広げて余裕のある環境を整えた。</li> <li>・子どもの状態も考慮し、利用児同士の距離やおもちゃの棚の配置換えなど安全に過ごせるよう工夫しながら対応している。</li> <li>・当日の登園数に合わせてマットを広げ、安全に過ごせるよう環境設定等の工夫を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育人数や保育内容によって環境を整えることはできているので引き続き適切に利用できるよう配慮する。</li> </ul>
	2	職員の配置数は適切である	6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事などの際には人員を調整して安全に進められるよう配慮した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハの配置は適切だと思うが、保育士と看護師については登園子どもの人数によって増員が必要だと感じることがある。安全に保育を進めていく為にも、関わる職員が多くなるよう環境を整えていきたい。</li> </ul>
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室内では子どもの特性を職員間で共通理解し、危険個所のチェック・見直し・改善点を話し合っている。</li> <li>・写真スケジュールを作成するなど、利用児の特性に合わせた環境を整えた。</li> <li>・土足エリアと清潔エリアをテープで仕切り、衛生面への配慮をしている。見やすいよう土足厳禁の掲示を貼ることで視覚的にもエリアを分けられるよう気をつけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き情報共有を行いながら、子どもの障がい特性に応じた環境設定を心掛ける。</li> </ul>
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃、整頓は毎日行い、わかりやすく構造化されている。</li> <li>・おもちゃの棚を移動したことで、子どもが遊びに集中しやすい空間作りができた。</li> <li>・動きのある子どもと臥位ベースの子どもが登園しているときには、危険がないよう、見守りを徹底している。</li> <li>・日々、マットやおもちゃ類の消毒など、感染症対策を行い、安全に過ごせるよう配慮した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁紙については剥がれている部分が多いため、装飾での工夫、又は張り替えを検討する。</li> </ul>
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当PT・OT・STとの個別会議と保育士・看護師・児童発達支援管理責任者を含めた全体会議の時間を年間スケジュールで組み、その会議の際に業務についての相談や検討を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、会議内で業務内容を検討しながら、よりよい業務に繋がるよう努める。</li> </ul>
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な面談での意見などを聞き、改善できるよう、努めている。</li> <li>・日々保護者の意見・要望等を傾聴し、支援に反映できるよう職員間でも共有して統一した支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保育や連絡ノート、そして、定期的にご家族と面談を行い、頂いたご意見を会議で検討して業務改善に繋げている。</li> </ul>

業務改善	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		・ホームページで公開している。	・引き続き、評価内容についてはHP上に公開する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	1	・今年度は行っていない。	・第三者評価については定期的に行い、業務改善につなげることができるよう計画する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	3	・虐待・感染予防・記録の書き方について研修を行った。	・研修の年間スケジュールを組むなど計画的に行えるよう努め、職員の資質向上に向けた取り組みを行う。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		・子どもと保護者のニーズを担当間で共有し、会議内で検討を行ったうえで計画を作成するよう努めている。	・引き続き、子どもに合わせた計画が立てられるよう努める。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	4	・標準化されたアセスメントツールは使用していないが、保育、PT、OT、STそれぞれの専門分野ごとに評価している。	・今後必要な状況があれば、会議内で検討したうえで作成する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		・定期的に面談を行いながら、状況や状態に合わせた支援内容が設定できるよう会議などで検討している。	・引き続き、職員間で内容を周知して、より具体的な支援が行えるように努める。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		・定期的に会議を行いながら、個別支援計画に沿った支援を提供している。 ・個々に設定された支援内容で支援を行うよう心掛けている。	・振り返りと評価を定期的に行い、より状況にあった支援を提供できるようにしていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		・リハスタッフが保育へ入る際には、事前に相談して専門性のある遊びを取り入れられるよう、月の予定を設定している。 ・個々に合ったプログラムが提供できるように、当日の朝、担当職員で再度打ち合わせを行い、特性に合った保育ができるよう努めている。 ・登園する子どもに沿ったプログラムや注意点などを打ち合わせして保育に望んでいる。	・引き続き、ご家族と情報交換を行い、体調や子どもの特性・成長をみながら、状況に合わせた活動プログラムを組めるように努めていきます。

適切な支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節行事や通年行事等、毎年の利用児の特性や人数などに配慮して活動の提供ができるようにしている。</li> <li>・多職種が集まっているので色々な視点からのアイデアが多く、活動に活かされている。</li> <li>・活動では、動きのあるものと座位でじっくりと遊ぶもの等、月間・週間で似たような遊びにならないよう配慮しながら計画を立てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの状況や環境的要因に配慮しながら、最適な活動プログラムが実行できるよう配慮する。</li> </ul>
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々での活動においては、一人一人に合わせた環境的配慮(使用道具など)を行っている。</li> <li>・他の子どもを意識した活動内容を取り入れることで子ども同士の発達を促している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、少人数での登園の場合でも、個別と集団での意識をしながらの活動展開を心がけていきたい。</li> </ul>
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の打ち合わせ時間を設定している。途中変更があった場合でもその都度確認しながら進めていけるよう心がけている。</li> <li>・リハスタッフが保育に入る際は前日までに保育内容の打ち合わせを行い、職員間で情報共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、内容や状況が把握しやすいように、ホワイトボードなどで情報共有を行い漏れがないよう気をつけていきます。</li> </ul>
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回リハ専門職ごとに保育と振り返りを行い、さらに会議で振り返りと情報共有を行っている。</li> <li>・情報を共有するための会議を行い、反省点を活かせるよう工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の振り返りが難しい時は日誌等で確認しているが、細かな反省や次の目標を立てる為にも、その日の振り返りを共通理解をしていけるように環境を整えていく。</li> </ul>
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の内容・反省等の看護師・リハビリストスタッフ・保育士の記録はND記録ソフトを見ることで確認することができる。</li> <li>・日々の記録を行い、定期的な会議にまとめることで支援内容につなげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、ND記録ソフトで記録を行い、内容については会議で検討して支援の改善に努めていく。</li> </ul>
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6か月ごとに再評価を行い、状況にあった計画を立てられるように面談を行っている。</li> <li>・ニーズの収集を行った後に各担当で内容を検討して必要があれば再度計画を立てるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談後、内容の情報共有をスムーズに行い、状況に合わせた計画を立てられるよう努めていく。</li> </ul>
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援管理責任者ごと利用者に関わる保育士、看護師、リハビリストスタッフ等担当が参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き参加しやすいように整えていく。</li> </ul>

関係機関や保護者との連携

22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターや併用施設と情報交換を行っている。</li> <li>・情報共有・連絡は取れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援協議会ではZOOM等を使用した会議も開催されているため、参加して情報交換を行い連携を図っていきます。</li> </ul>
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者を通して連絡を取り、安心して保育に参加できるように情報共有を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、保護者の要望や状況に合わせて支援を行っていく。</li> </ul>
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療所等より健康面での情報提供をしていただき、共通理解を得ている。</li> <li>・母を通して受診結果を聞きながら、必要時には連携を取るように心がけている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、連絡を行いながら安心して登園できるように努める。</li> </ul>
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校見学や地域の部会に参加することで情報共有を行っている。</li> <li>・併用通園(児発)・保育園等に通われている子どもについては、支援内容の共通理解を行う為に保護者の同意を得てから情報の共有を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもやご家族の要望に沿った情報共有が行えるように努める。</li> <li>・他施設との情報交換を行うことで、子どもへの対応の仕方や環境の実態を把握し、支援に繋げていきたい。</li> </ul>
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学後の面談などを行い、担任教諭と情報共有を行っている。</li> <li>・卒園する子どもの引継ぎを担任の先生と直接行うことが出来ている。</li> <li>・学校見学を保育の中で設定し、年長以外の子どもにも支援学校を見る機会を作っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も特別支援学校等への引継ぎや連携を図り、通園されている保護者へ情報提供を細かく行っていきたい。</li> </ul>
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の事業所を見学し、情報の共有に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが利用している併用施設などと情報交換を行う機会が定期的にあると、より良い支援につなげやすいので機会を設定できるよう検討する。</li> </ul>
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の流行により企画することができなかったが、保育や行事にはきょうだい児が参加できるよう内容を検討し、交流を図る機会を設けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺地域における感染症の流行状況を見ながら企画を検討する。</li> </ul>
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回参加している。連絡先も交換しているので、必要時には連絡がとれるような体制はとっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、参加できるよう調整する。</li> </ul>

	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		・母子通園を基本としているのでコミュニケーションも多く取れることから共通理解をもって関わる事ができている。	・引き続き子どもやご家族と情報交換を行い、悩みを共有し、問題解決に向けて寄り添った支援を行っていく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	1	・防災訓練・口腔歯科研修・OB交流会等を行い、家族支援に繋げている。	・引き続き、保護者からどんな勉強会がしたいか等のアンケートをとり、参加できるよう予定の調整を考慮しながら勉強会プログラムを組んでいく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		・入園時や新年度にオリエンテーションを行い説明する機会を設けている。	・引き続き、不足がないよう丁寧に説明を行っていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		・面談時に報告と支援内容を説明させていただき同意を得られるようにしている。	・日々の保育の中で情報交換を行いながら、より状況にあった支援を行っていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		・保護者の方の悩みや相談を受けたスタッフが助言を行うとともに会議などで情報共有をしている。 ・悩み・相談等必要な状況があれば、個別で面談の機会を作り、悩み等の解消に向けて一緒に考えられるように努めている。	・引き続き、リハスタッフやコーディネーターなど関係スタッフに相談しながら、より専門的な支援が行えるように体制を整えていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		・保護者会より要望がある際には調整を行い、保護者同士が連携できるような体制を取っている。	・引き続き、保護者会からの要望に応えられるような体制を取っていきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		・子どもやご家族から相談を受けた場合には職員間で周知し、速やかに対応できるような体制を取っている。	・引き続き、職員間での報告、連絡、相談をしっかりと行い、受けた相談に対しては迅速かつ適切に対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		・毎月の行事や活動写真の入った「ちゅうりっぷだより」を発行して活動や伝達事項について周知しやすいようにしている。	・引き続き、情報が分かりやすいように掲示・アナウンスを行っていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7		・個人情報の取り扱いについては承諾書を取っている。	・引き続き個人情報が守られるよう管理していく。

	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの様子や意思表示について分からないことがあれば、保護者からも確認をとり、情報を得ようとしている。</li> <li>マカトンサインや写真を提示するなど個別性を考えながら、意思の疎通を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当間で情報交換を行いながら意思の疎通をスムーズに行えるよう配慮していく。</li> </ul>
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインで近隣施設とのウェブ祭りを開催し、交流を図っている。</li> <li>あきる野市の園芸ボラなど外部の方を招く機会を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、交流が続けていけるよう検討していきます。</li> </ul>
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>センターとしてのマニュアルは策定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況ごとに合わせたマニュアルは整備できていないので、内容を検討したうえで職員周知と訓練を実施していく。</li> <li>保護者へ説明する機会を設ける。</li> </ul>
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練を実施し、子どもと保護者に参加していただいている。</li> <li>初期消火訓練や避難経路の確認を定期的に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、年間でスケジュールを組んで実施していく。</li> </ul>
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診後など情報を収集し、薬を含む治療法と発作の状況を把握するようにしている。</li> <li>てんかん発作のある児は保護帽を被るなど安全対策を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き情報交換を行いながら、誤薬などないよう気をつけていく。</li> </ul>
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>食物アレルギーがあれば、食事箋に明記して栄養科と連携し対応している。</li> <li>配膳時には個別ごと食札にアレルギー食材の表示をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き注意しながら進めていく。</li> </ul>
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>センターの会議で報告を行い、再発防止に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き会議で報告、検討して再発防止に努めていきたい。</li> </ul>
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待防止委員会での研修と年2回自己評価シートを活用し、分析と振り返りを行っている。</li> <li>身体拘束適正化委員会の基準に則り対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き研修を行い、気の緩みがないように継続して行っていきたい</li> </ul>
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者が出た場合の準備はできている。</li> <li>安全面を配慮した上での座位保持・バギー等でのベルトの装着については支援計画に記載し、説明を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者が出た場合の手順については職員間で周知し、対応していく。</li> </ul>

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。